

新年のごあいさつ



越前町長

内藤 俊三

新年、あけましておめでとう、ございます。町民の皆様には、ご家族お揃いでお健やかに令和3年の新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

また、旧年中は町政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、明けから新型コロナウイルス感染症が世界各地で猛威を振るい、1年をとおして新型コロナウイルス感染症に振り回された感じがいたします。そして、その収束が見通せない状況が続いております。

ただ、そのような中で、海外においてはワクチン開発が進み、欧米ではすでに接種が始まっており、一筋の光が見え始めております。日本でも一日でも早くワクチンの接種が受けられることを願っております。

また、7月には、梅雨前線の停滞により、全国各地で豪雨災害が発生、9月には、福井県で地震が発生し、実に57年ぶりとなる震度5弱の揺れを観測いたしました。災害発生時には、避難所などで3つの密「密集・密接・密閉」を避け、検温や問診を徹底するなど、感染拡大防止対策についても備えなければならないと感じております。

一方で、かねてから整備を進めておりました越前町役場の新庁舎が10月に完成し、11月9日から本格的な業務を開始いたしました。これまで大勢の町民の皆様が新庁舎を見学していただき、併せて、これからの越前町を担っていく小中学生のみなさんにも広く見学していただいております。今後も町民の皆様が親しまれる庁舎を目指してまいります。

11月には、本町の「上岬地区」、福井市の「下岬地区」、南越前町の「糠地区」が国の重要な文化的景観に選定されました。越前海岸の水仙畑や集落の景観が認められ、花の栽培地としては全国初の選定となりました。

昨年は、コロナに始まりコロナに暮れた一年となり東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、本町のイベントもことごとく中止となり、大変寂しい年となりました。

今年こそ、コロナを克服し、オリンピック・パラリンピックや町のイベントが開催され、日本が元気になり、越前町に活気が戻ってくることを期待したいと思います。

令和3年の年頭にあたり、私は当然の日常生活が送れる年となること、併せて町民の皆様方のご健勝とご多幸を強く願わずにはられません。

特に子どもたちのことが気がかりで、昨年来、学校生活が犠牲となり、心と体に与えた影響を大変心配しております。

一刻も早く、子どもたちが安全で安心して送れる学校生活を取り戻したいと思っております。

子どもたちに笑顔が戻り、町民の皆様一人ひとりが幸せを感じることで、家庭から地域へ広がり、町全体が元気になることを肝に銘じ、行政の舵取りを担ってまいりたいと考えております。

また、私はコロナ対策と同時に、町が抱える課題を解決し、

「快適で安全に住み続けられるまちづくり」

「誰もが健康で暮らしやすさを実感できるまちづくり」

「人が輝き豊かな心が満ちあふれるまちづくり」

「人と仕事の活力みなぎるまちづくり」

「ふるさと個性を活かし交流を育むまちづくり」

「持続可能な健全財政のまちづくり」

の実現に向かって、町民の皆様と気持ちを一つにして邁進したいと考えておりますので、本年も格段のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

重ねて、町民の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。

越前町議会議長

木村 繁



あけましておめでとう、ございます。令和3年の年頭にあたり、越前町議会議会を代表致しまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

旧年中は町議会活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、今年は、私たち議員も改選の年を迎え、ここに改めまして、これまで4年間のご指導ご鞭撻に心から深く感謝を申し上げます。

さて、昨年の新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行は、世界中を震撼させ、コロナ禍という言葉も誕生しました。

このコロナ禍が社会、経済に与えた影響は大きく、東京オリンピック・パラリンピックの延期、感染拡大地域との往来自粛、飲食店等への休業要請、テレワークやリモート会議の推奨など、社会生活を一変させました。国では、アフターコロナに向けて一層のデジタル化の推進を表明し、新しい日常生活の実現を進めております。

本町におきましても、イベントや催し

が取り止めとなる中、町民の皆様には「うつらない、うつさない」行動の徹底など、人を思いやる心を持って過ごしていただいていることに、厚くお礼を申し上げますとともに、一日も早い収束を願うものであります。

一方、町内の明るいニュースとしては、越前町役場の本庁舎が新築完成しました。この新庁舎に町民の皆様が集い、新たな拠り所となり機能して行くことを願っております。

10月には、越前が「極」が披露されました。今後、全国的なブランドとして成長していくものと期待しております。

11月には、「越前海岸の水仙畑」が重要な文化的景観に選定され、花での登録は全国初という輝かしいものとなりました。

また、年末には、越前がにの空前の高騰が話題となりました。国の「Go To キャンペーン」の影響という面はあるものの、やはり、ブランド力が高まっているという実感があります。

このように、町内には様々な資源の中で輝きを放つものが点在しています。個々に磨き、育てることはもとより、ネットワークづくりや行政と町民の連携によ

り、ひとつの輝きをきっかけとして、町内全域を活性化する取り組みが大切であると思っております。

さて、私達を取り巻く社会情勢が大きく変化し、地方交付税の減少やコロナ禍による税収の減少見込みなど厳しい財政状況の中、人口減少、教育環境、福祉の充実、防災、公共施設の老朽化対策など多くの事業を的確に行っていくかなければなりません。

多様な町民ニーズに応えるために町議会の果たす役割は非常に重要であり、皆様の意見や思いを迅速に察知するための情報収集、そして、町政に反映させるべく経緯や結果を情報発信することが肝要であると認識しております。

昨年12月の議会定例会からは、役場庁舎内において、議会の映像配信を始めました。今後は、インターネット配信や丹南ケーブルテレビでの配信に向けて取り組みを進め、皆様に開かれ、信頼される議会づくりを目指して参ります。

今年も議員一同、使命と職責をしっかりと踏まえ、より良い町づくりに努力傾注して参る所存でございますので、何卒ご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、町民皆様のご健勝とご多幸を、そして希望に満ちた年となることを心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。